令和６年度全国学力・学習状況調査　結果概要

羽曳野市立高鷲南中学校

【実施期間】

令和６年４月１８日（火）

【実施生徒数】

３年生　１２５名

【実施内容】

◎ 教科に関する調査

国語・数学

◎ 質問紙調査

※オンライン方式により実施

【調査目的】

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育政策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【調査内容】

調査問題、解答例、解説資料は国立教育政策研究所のホームページにて公開されています。下記リンクもしくは右 QR コードよりご覧ください。

https://www.nier.go.jp/24chousa/24chousa.htm

※今回お知らせする調査結果は、あくまで学力や学習状況の一部分であり、生徒の学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

令和６年度全国学力・学習状況調査 結果分析　　羽曳野市立高鷲南中学校

教科に関する調査…【　国　語　】

１．成果と課題

※成果となる点ついては〇、課題となる点については●で表しています
※根拠データの数字は（本校/府/全国）で表記しています

〇全体を通して結果を見てみると、正答数の中央値が本校８問に対し、府と全国のみならず主だった都市でも中央値は９問という結果（国立教育政策研究所・分析結果より）であったことからもわかるように、本校では中間層の学力が課題である。また、正答数５問以上１０問以下の生徒の割合に注目すると、(63.1%/53.5%/53.9%）と、本校が最も高いという結果である。一方で、正答数５問以下の生徒の割合に着目すると、(13%/13.9%/12.6%）となり、府よりも数値が低いことがわかる。このことから、本校は基礎的な学力の定着は、一定の成果が見られるということがわかる。

●一方で、１０問以上解答できた生徒の割合は、(40.2%/53.2%/54.9%）であり、高得点層が府や全国の平均を若干下回る。成績中間層を上位にもっていくための、高度な学力をつけるための学習内容を充実させていくことが課題だろう。全国的に見ても、生徒集団のなかで最も割合の高いのが正当数 10 問の層、その次が 11 問の層であるが、そのどちらも本校は大きく下回っている。中間層の生徒の強化をテーマに、今後いっそう学力向上を図っていきたい。

〇本校が全国よりも正答率が高かった問題が５題あり、A「話し合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する」・A「本文中の図の役割を説明したものとして、適切なものを選択する」・A「情報と情報との関係を説明したものとして適切なものを選択する」・A「短歌に詠まれている情景の時間帯の違いを捉え時間の流れに沿って並べ替える」・⑴「行書の特徴」である。傾向として、「A 話すこと・聞くこと」の結果に優位性が認められた。

●本校が全国平均を下回ったものについて、特に目立つのが、「自分の考えを書く」・「要約」などといった記述式の設問である。さらに正答率の低さよりも気になるのが無回答率の高さである。設問 1-四では（17.2%/12.4%/9.9%)、設問 2-四では（11.5%/9.6%/8.4%）が無回答率となり、約２倍近くも差ができているところを考えると、苦手意識以前に、取り組むことに対して消極的であることがわかる。

２．今後の取り組みの指針

本校の課題として明確になったのが、「自分の考えを書く」・「要約」などといった記述式の設問に対する消極さである。選択肢を与えられたら選ぶことができるが、何もない状態で自分が考えるとなると、とたんに他の設問へ移ってしまう。「書くこと」に対しての抵抗をなくすために、まずは簡単な記述、具体的にはキーワードを２～３語指定して行う１００字要約などから始めたい。重要な言葉を不自然ではないようにつなぐだけで、要約が完成することで、多量の文字を書くことへの抵抗を薄めたい。その後、自分の考えを書き込むような、より高度な発問に取り組む。そして、その次の段階として「情報の扱い方に関する事項」を意識し、主体的な情報選択や価値判断の機会を与え、文脈から情報を読み取る能力や複数の資料から傾向を見とるような課題に取り組ませていきたい。

令和６年度全国学力・学習状況調査 結果分析　　羽曳野市立高鷲南中学校
教科に関する調査…【　数　学　】

１．成果と課題

※成果となる点ついては○、課題となる点については●で表しています
※根拠データの数字は（本校/府/全国）で表記しています

○　「C 関数」と「D データの活用」の領域において、どちらも平均正答率が「C 関数」（本校 61.0%/府 58.9%/全国 60.7%）、「D データの活用」（本校 54.9%/府 53.3%/全国 55.5%）と大阪府の平均より高かった。このことより、表や図などから変化の特徴などについての理解があるとわかる。

○　特に、データから最頻値を読み取る問題では、平均正答率が(本校 90.2%/府 73.0%/全国 74.3%)と正答率がとても高かった。

○　無回答率は全問題を通して全体的には全国や大阪府とも大きくは変わらず、選択式の問題についてはがほとんど 0%と、解こうとする意欲がある。

○　生徒質問紙の中の質問項目「数学の勉強は好きですか」の肯定的な回答は 68.8%、「数学の勉強は大切だと思いますか」では肯定的な回答が 94.4%、「数学の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようと思いますか」の肯定的回答が 84.8%と、どの項目についても府や全国より多く、数学の学習について意欲的な姿勢がある。

●　等式を変形する問題の正答率が(本校 46.3%/府 52.6%/全国 52.5%)と低く、基本的な計算問題でも定着が浅いことがわかる。

●　記述問題５問の無回答率の平均は(本校 32.5%/府 29.5%/全国 26.5%)であり、どの問題も全国や大阪府より多い。また、記述問題で正答であっても、説明が不十分であるものの割合も高い。記述式の問題に慣れ、書き方について指導する必要がある。

●　簡単な場合についての確率を求める問題の正答率が(本校 65.9%/府 72.8%/全国 73.1%)で全国や大阪府と比べて低い。確率については苦手意識のある生徒が多く、丁寧な復習が必要である。

２．今後の取り組みの指針

※今回の調査結果を踏まえ、今後授業で意識して改善に取り組むべき点などについて

・授業で毎回行っている小プリントを継続し、基本的な知識・技能の定着を図る。その際、数学的な用語の意味を確認するなど、基礎的な内容の確認を行う。

・記述式の問題については、まずは慣れることが必要である。なぜそうなるのかを考えさせることや、理由を考えさせる授業など、各単元で複数回扱うように授業計画を立てたい。また、考えさせるだけでなく、記述する練習を行い、その際には正答の例を丁寧に示すようにする。

・確率に関する問題については、丁寧な復習が必要である。場合の数をすべて書き出すための樹形図や表などを使う方法を再度確認したい。

令和６年度全国学力・学習状況調査 結果分析　　羽曳野市立高鷲南中学校

生徒質問調査…本校の傾向

１．成果

○「（１）朝食を毎日食べていますか」という質問に肯定的に回答した生徒について、全国や府平均を下回ってはいるものの、昨年度の数値に対して向上している。（本校 88.8%/府 89.1%/全国 91.2%）
→引き続き、これまでの「早寝早起き朝ごはん」の取り組みを継続し、基本的生活習慣の確立に向けて生徒、保護者への啓発活動の推進を図っていく。

○「（１０）先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問に肯定的に回答した生徒は府/全国を上回っている。（本校 92.8%/府 89.7%/全国 90.4%）
「(14) 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という質問に肯定的に回答した生徒は府/全国を上回っている。（本校 70.4%/府 70.0%/全国 67.5%）
→引き続き、安心して学校生活を送ることができるような環境づくりに努めていく。

○「(29) １，２年生の時に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や分掌、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」という質問に肯定的に回答した生徒は府、全国を上回っている。（本校 76.8%/府 67.2%/全国 64.8%）
「(30) １，２年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問に肯定的に回答した生徒は府、全国を上回っている。（本校 83.2%/府 80.3%/全国 80.3%）
「（３１）１，２年生のときに受けた授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」という質問に肯定的に回答した生徒は府、全国を上回っている。（本校 82.4%/府 76.6%/全国 75.4%）
→これらは、授業をはじめ、いろいろな話し合いの機会を設定し、他人の意見をしっかり聞き、自分の意見を発表することに取り組んできた成果と考えられる。

２．課題

●「(21) 学校の授業時間以外に普段、１日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」という質問に対して、全くしないと回答した生徒が府、全国と比べて多い。（本校 14.4%/府 10.6%/全国 6.6%）
同様に、「(22) 土曜、日曜、休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」という質問に対しても、全くしないと回答した生徒が府、全国と比べて多い。（本校 24.8%/府 21.2%/全国 13.1%）
→これらのことから、学校での授業はしっかり受けているものの、授業の予習、復習など家庭学習の習慣がない生徒が多く、学習内容の習得につながっていないものと思われる。
→また、この結果に関係する項目として、「(26) 放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか」

の質問に対して回答した生徒が多かったものが、「1.学校の部活動に参加している」（本校 74.4%/府 65.9%/全国 71.1%）、「6.スポーツ（スポーツに関する習い事を含む）をしている」（本校 32.8%/府 25.1%/全国 30.4%）、「7.家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNS を利用したりしている」（本校 88.0%/府 84.5%/全国 88.6%）、「8.家族と過ごしている」（本校 69.6%/府 64.7%/全国 68.0%）である。

このうち、7.に関係する質問として「（５）普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしますか」に２時間以上と答えた生徒の割合（本校 72.0%/府 54.6%/全国 48.9%）、「（６）普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか」に２時間以上と答えた生徒の割合（本校 70.4%/府 61.6%/全国 55.9%）が非常に大きく、ゲームや動画視聴に費やす時間が府や全国と比較して非常に多いことがわかる。

一方で、「（７）携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」という質問に対して、肯定的（守っている）な回答をした生徒は府、全国より多く、家庭での使用についてのルールが定着されていることがわかる。（本校 81.6%/府 72.6%/全国 77.8%）

３．総評、今後の取り組み

・調査結果から、生徒たちは概ね授業・学校行事や部活動など中学校での活動にしっかり取り組んでいることがうかがえる。

・望ましい生活習慣が十分確立ができていない生徒も多く、本校でこの間取り組んできた「早寝早起き朝ごはん」の取り組みを継続し、今後も生徒、保護者への啓発を推進していきたい。

・授業で PC・タブレットなど ICT 機器の活用を促進し、生徒の学力向上のため、教職員のスキルアップを図り積極的かつ効果的な活用ができるように努めていく必要がある。

・授業がよくわかると肯定的な回答をしている生徒が多い反面、家庭での学習時間は府・全国の結果と比べても全体的に短く、家庭での学習習慣が十分定着していない生徒も多数見られる。学校の宿題に取り組むだけでなく、主体的に学習計画を立て、計画に基づいて学習を実行していく力を育むことが大切である。引き続き学習アプリ「ドリルパーク」を活用して個別のフォローアップを行うなど、１人１台端末を有効に活用して家庭学習習慣の定着を図っていく。

・授業など学校生活のさまざまな場面における話し合いの機会を多く設定してきたことが、生徒にも肯定的に評価されている。今後も積極的に生徒どうしのコミュニケーションを活性化して、生徒間の相互理解、集団づくりにもつなげていきたい。